

2026年 1月 1日

退職教職員協議会双葉支部会員のみなさま

福島県退職教職員協議会

双葉支部 事務局

退教協双葉支部「退教協ニュースNo.421号」 の送付にあたって

新年を迎えました。今年もよろしくお願いいたします。

昨年流行語大賞に、あの高市首相が言った「働いて働いて働いて働いて働いてまいります」があげられ、私は啞然としました。教職員の残業問題から発した「働き方改革」が進められようとしている中、教職員を含め、労働者の苛酷な働き方をさらにあおるような発言にほとほとがっかりしました。問題視され、「自分のことを言ったものだ」とは言うものの、労働時間規制の緩和の検討を指示したのです。経済成長を唱える高市首相にとっては、国民にも「働いて」⁵を求めていることが大事なのでしょうね。

今年は、「戦後80年」「原発事故15年」の年です。このタイミングで、非核三原則の見直しが検討されたり、新潟、北海道で原発再稼働を決めたりすることに怒りを覚えます。2026年は、さまざまなところで「80年」「15年」に関連した行事や集会等が開催されることでしょう。戦争を経験した者として、その経験談を直接聞いた者として、何よりも「原発事故避難者」として、可能であればそういう集会や学習会に参加し、声をあげてほしいと思います。

各地区交流会開催! (福島・郡山・会津・富岡・いわきの5会場で開催)



(左から) 福島、郡山、会津、いわきのそれぞれの会場の画像です。富岡会場では撮影を忘れてしまいました! 次頁のイメージ図をご参照ください。富岡会場に参加されたみなさま、申し訳ございませんでした。

11月26日～30日にかけて、県内5会場で地区交流会を開催しました。県内外に避難を続けているたくさんの方の会員が、1か所に集うことが難しくなってきたことから、地区ごとの交流会という形で、「あけぼの会」と連携しながら開催しました。それでも参加者数は少なかったのですが、参加者からは、この14年の避難生活、そして今の生活について「近況報告」をしながら、これからのことについても意見を交流することができました。



富岡会場のイメージイラストです。

地元支部長の、五十嵐史郎さん（福島伊達）、石川晃民さん（郡山）、青津ミヤ子さん（北会）、さらには、現職組合の支部長の、鹿目秀樹さん（福島伊達）、佐藤禎仁さん（郡山）、山田実さん（双葉）にも参加をいただくとともに、祝金を頂戴いたしました。この祝金は、毎月1回の会報の発送を活動の主体とする双葉支部にとっては大きな支援となるものです。ありがとうございます。県の会長である竹中さんには、福島会場に参加いただくとともに、各会場へのメッセージをいただきました。さらには、「生きがい支援協会」からは先日補助金を頂戴いたしました。この紙面をもって御礼申し上げます。

県の会報が発行されましたので同封いたします。健康保険証等、大事な情報も掲載されていますのでぜひお読みください。

原稿をお待ち
しています



近況報告、または昔の思い出、さらには現職時代の写真など、提供をよろしくお願いします。短歌や俳句なども大歓迎です。メモ的なものでどうぞ。

○ 住所等の変更及び会報の原稿は、下記の連絡先までお願いいたします。

○ 連絡先 （事務局長）柴口正武 宅

〒976-0036 相馬市馬場野字寺内175-5

※ 電話は 090-2604-8941

※ ファックスは 024-522-7751

（弘済会福島支部／柴口勤務先）

※ 電子メールは shibaguchi0211@gmail.com



2026年 1月 1日

第421号

退教協ニュース

明けましておめでとうございます

鹿児島市（浪江町）木村政文

双葉郡の皆様、お元気でしょうか。鹿児島県肝付も暑かった夏がうそのように、一気に秋を通り越して冬に近づいている感じです。

いつも柴口さんには、情報を発信していただき感謝しております。その柴口さんの切羽詰まったメッセージ（笑笑笑）を読み何か投稿しなければと思い書きたいです。実は、肝付町に来て以来、毎月、町広報に教育長コラム「ちよっといい話」を書いています。今回は、令和8年1月号（新年の挨拶）の原稿を送ります。少しでも肝付町の教育を感じていただければ幸いです。皆様には、少し早いですが新年の挨拶とさせていただきます（笑笑笑）

※「10月」にいただいた原稿をそのまま引用させていただきました（事務局）

新年明けましておめでとうございます。

去年は、学校教育、生涯学習にご支援いただき誠にありがとうございました。お陰様で、本町の教育も次のステージに向け着実に前進しております。

ところで、教育用語に「メタ認知」という言葉があります。この概念は、子どもたちの学習において大切であり、自分を客観視することにつながります。日頃、感じていることですが、本町には、自然、伝統、歴史、記憶など、誇れるものが数多くありますが、内にいるとその良さになかなか気づきません。

例えば、本町は太平洋に面した長い海岸、甫与志岳のある国見連山、水田が広がる肝属平野などの自然。また900年の伝統ある流鏝馬、八月踊り、鎌踊り、ドヤドヤサー、ナゴシドンなどの伝統。さらに日本最南端の前方後円墳群である塚崎古墳群、肝付氏の戦城・居城であった高山城跡、鎌倉の建



長寺ともゆかりのある道隆寺跡などの歴史。日本初の人工衛星おおすみを打ち上げた内之浦宇宙空間観測所の記憶。このような自然、伝統、歴史、そして最先端の科学などがあふれる素敵な町で、子どもたちは学び、私たちは生活をしていることに誇りを持ち、承継することが大切であると強く感じています。

さて、令和8年は本町の教育（学校教育、生涯学習）においても、デジタル化、AIの活用などが一層進むかと思います。ただ、AIやロボットにとって代わることはできない、人間にしかできないことは「他者に共感したり、意図を汲み取ったりすること」だと言われています。そのためには、身の回りや地域に思いを寄せ、そこにある課題を見出し、その解決に向け協働していく力を養うことが大切になります。そこで、承継創造（先人に学び引き継ぎ、新しい価値を創り出す）の理念のもと、立場や能力、年齢などを限定しない、最先端のデジタルと身の回りの課題解決を図るアナログを一体とした、時間・空間・人間に開かれたシームレスな環境を創造し、教え・学び合い・行動する施策を愚直に進めていく所存です。そして、持続的な町づくり、地域づくりへつなげ、一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せに貢献できる教育を目指してまいりますので、よろしくお願いいたします。

.....

（事務局より）次号は、江又トミさんの原稿をお送りいたします。

関心事

by Monster 松

